

3 地区別ワークショップからの提案

(1) ワークショップについて

地域の魅力増進、課題解決にあたっては行政だけでなく、地域住民等と協働し、今後、進めていくべきまちづくりについて対話形式で議論を進める必要があります。コロナ禍による身近な生活環境への関心が高まる中、都市計画マスタープランでは、地域住民等のまちづくりを促進するため、地域の魅力増進、課題解決をともに考える区民等を募り、ワークショップを実施しました。

今後、地域住民等の発意を基にエリア単位でのまちづくりを進め、エリアまちづくりの方針等を位置付けていくことが望まれます。

(2) 地区別ワークショップについて

地区別まちづくりの方針を策定するにあたり、深川・城東・南部の3地域でワークショップを開催し、区民や学生等の提案を整理しました。ワークショップでは、区民ワークショップと学生ワークショップの2種類のワークショップを実施し、多様な視点からの意見やアイデアによる議論を行いました。なお、新型コロナウイルス感染症の対策として、オンライン形式（非対面形式）とオフライン形式（書面形式、個別対面型のオープンハウス形式、少人数でのグループワーク形式）に分けてワークショップを実施しました。

ワークショップ委員構成

深川地域

31人（区24人、学7人）

城東地域

27人（区22人、学5人）

南部地域

31人（区23人、学8人）

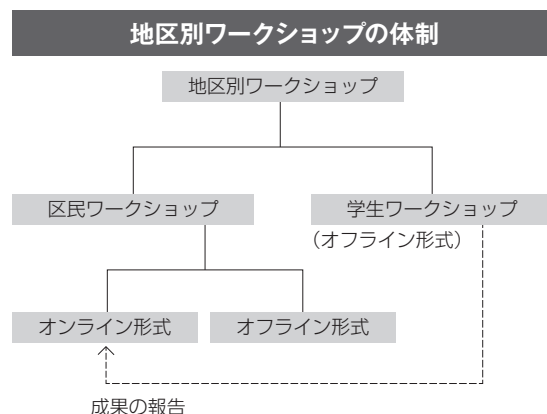
※区：区民ワークショップ委員 学：学生ワークショップ委員

区民ワークショップ

- ・公募、町会・自治会、団体等の地域関係者から委員を構成し、委員の意向を踏まえ、オンライン形式とオフライン形式に分かれてワークショップを実施しました。
- ・区民ワークショップでは、学生ワークショップの成果を報告・共有し、相互の意見等が融合した活発な議論を進めました。

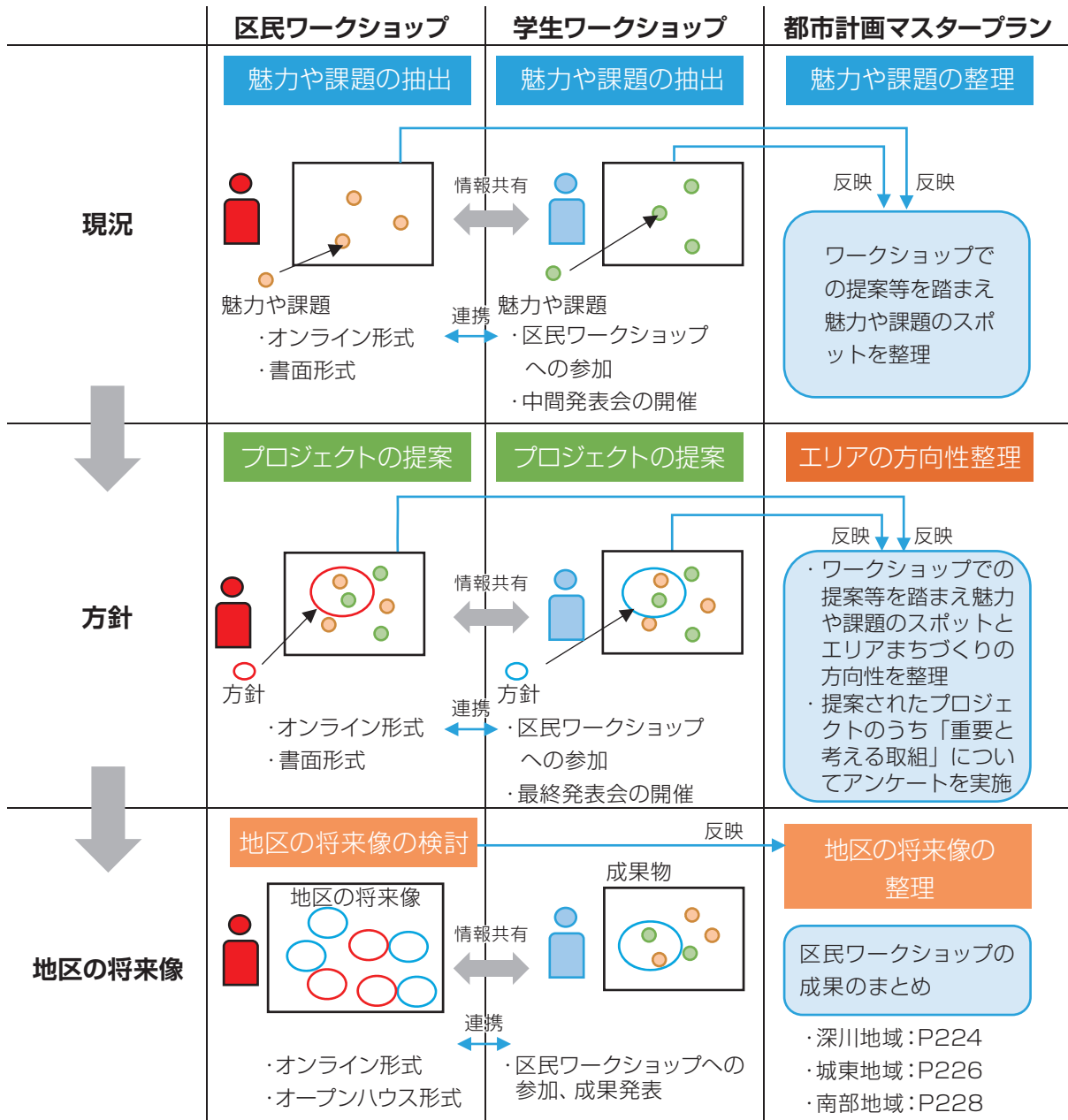
学生ワークショップ

- ・包括協定を結ぶ芝浦工業大学の3つの研究室と連携し、各研究室の学生が委員、教授が講師となり、地区を分担してワークショップをオフライン形式で実施しました。

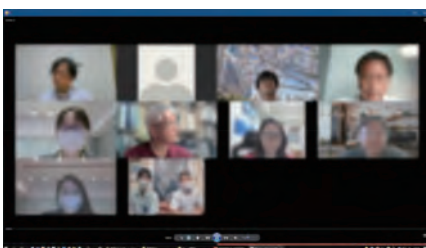


プログラム

区民ワークショップと学生ワークショップが連携しながら、魅力や課題の整理、プロジェクト等の提案、それらを踏まえたエリアの方向性、地区の将来像をまとめました。



ワークショップの様子



区民ワークショップ
(webを活用した非対面形式)



学生ワークショップ
(中間発表会)



区民ワークショップ
(個別対面型のオープンハウス形式)

(3) 区民ワークショップの主な意見

ワークショップ（オンライン、書面）における「自分たちのまちの『こうしたい』を考えよう」の意見や学生ワークショップの調査等を踏まえ、提案プロジェクトをまとめました。また、ワークショップ後に参加者にアンケートを行い、提案プロジェクトの中で「重要と考える取組」を集計し、その数が多かったプロジェクトを下記で「◎：特に重要と考える取組」として示しています。

深川地域

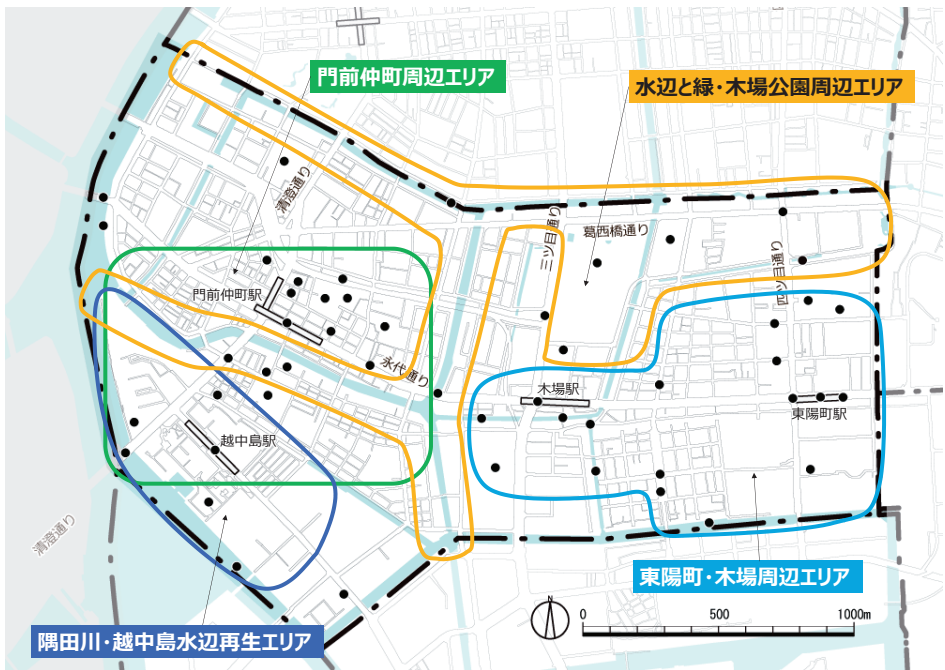
深川北部地区のプロジェクトマップ



<深川北部地区 主な提案プロジェクト> ◎：特に重要と考える取組

森下周辺エリア ◎【観光・交流】夜店通りの復活（映画館や寄席） ◎【住環境】活動継続のための町会参加義務付け ○【環境／住環境／観光・交流】持続可能な地域づくり（SDGs） ○【観光・交流】情報発信の場・プラットフォームづくり ◎【観光・交流】高橋乗船場を活用した隅田川と内部河川の舟運による接続 ○【観光・交流】広重名所江戸百景「大はしあたけの夕立」の紹介	主なスポット 高橋商店街（高橋のらくろード） 森下文化センター 高橋乗船場 新大橋
隅田川・内部河川周辺エリア ◎【観光・交流】水辺の桜並木の居場所づくりとプロモーション ◎【水辺と緑／観光・交流】水辺の遊歩道など公共空間の利活用 ○【安全・安心】ローカル 5Gによる地域の交通・災害情報発信	主なスポット 横十間川 隅田川テラス 大横川
清澄白河・木場公園周辺エリア ◎【水辺と緑／観光・交流】緑地や水辺、道路など公共空間の利活用 ◎【観光・交流】寺社境内を活用したイベント ◎【観光・交流】地域ブランディング（カフェ文化の発信） ◎【観光・交流】木場公園や現代美術館など多様な主体との連携によるまちづくり ○【観光・交流】空き店舗や小規模公共空間への、週末出店支援 ○【観光・交流】個店のイベント連携と情報発信	主なスポット 深川資料館通り商店街 清澄庭園 三好三丁目・平野三丁目周辺の神社仏閣 木場公園（北側）
住吉・新駅周辺エリア ◎【道路・交通】地下鉄 8 号線の開通、住吉駅・新駅周辺の機能強化 ◎【観光・交流】商店街のり・デザイン、ライトアップ ○【観光・交流】アートによるまちの魅力づくり	主なスポット 住吉駅周辺 美術館通り石島商店会・扇南商店会

深川南部地区のプロジェクトマップ



●：魅力や課題のスポット
(区民意見)

<深川南部地区 主な提案プロジェクト> ◎：特に重要と考える取組

門前仲町周辺エリア ◎【観光・交流】 観光施設のユニバーサルデザイン推進 ○【観光・交流】 案内所の表通り移設 ○【観光・交流】 観光施設と商店街の連携によるオープンエア・レストラン	主なスポット 門前仲町駅周辺 深川仲町通り商店街 深川不動尊商店会
水辺と緑・木場公園周辺エリア ◎【環境／水辺と緑】 水辺の清流化 ◎【環境／水辺と緑】 公園や緑地の避暑地化 ◎【水辺と緑】 古石場川親水公園等河川の緑道空間活用 ○【水辺と緑】 遊歩道のフラワーロード化 ○【水辺と緑／観光・交流】 内部河川における川床の設置・観光船の運行	主なスポット 木場公園（南側） 古石場川親水公園 仙台堀川公園 大横川
隅田川・越中島水辺再生エリア ◎【水辺と緑／観光・交流】 隅田川～大横川テラスの歩いて楽しい水辺の空間づくり ◎【水辺と緑】 深川公園～古石場川親水公園の散歩道の整備 ○【水辺と緑／観光・交流】 船着場の設置	主なスポット 隅田川テラス 大横川 古石場川親水公園
東陽町・木場周辺エリア ◎【観光・交流／景観】 商店街同士の連携による駐車場等共同設置、まち並みルー ル統一 ◎【住環境】 商店街や事業所を通じた生活弱者への支援強化 ◎【土地利用】 まちの顔となる広場など公共空間整備 ○【水辺と緑／道路・交通／観光・交流】 木場⇄新木場水陸便運航	主なスポット 東陽商店街 東陽駅前商店会 東陽町駅周辺 木場駅周辺

地区の将来像

深川北部地区	伸びやかな緑地と歴史とアートとともに生きる水辺の回遊性を活かした個性豊かなチャレンジするまち
深川南部地区	ふるさと隅田川の水辺に、安全安心、歴史と伝統、下町人情が生きる、多様性ある地域の観光・交流拠点

城東地域

城東北部地区のプロジェクトマップ

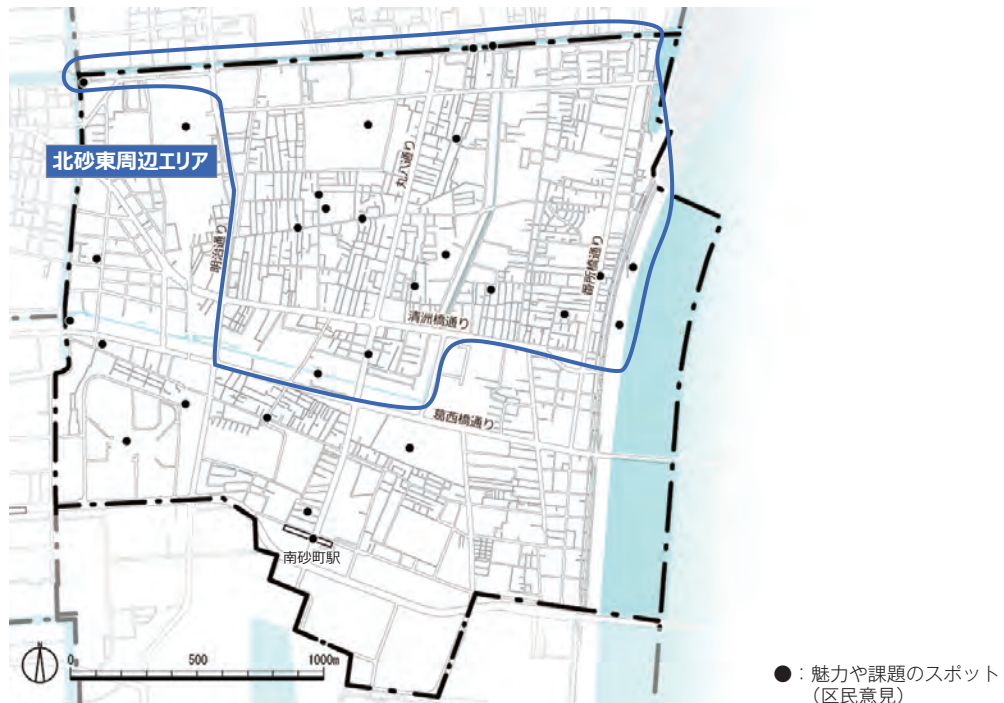


<城東北部地区 主な提案プロジェクト> ◎：特に重要と考える取組

亀戸駅北口周辺エリア ◎【道路・交通】越中島貨物線の旅客化 ◎【水辺と緑】亀戸駅前公園の整備 ○【道路・交通】亀戸駅北口ロータリー整備 ○【道路・交通】道路再整備とオープンスペースの確保	主なスポット JR 越中島貨物線 亀戸駅前公園 亀戸駅北口周辺 亀戸駅前歩道橋
亀戸駅東口周辺エリア ◎【道路・交通】駅前整備（東口改札拡幅）と亀戸六丁目再開発地の接続強化 ◎【道路・交通】南北アクセス交通改善 ○【道路・交通】東口のバリアフリー ○【道路・交通】京葉道路の歩道橋老朽化対策 ○【観光・交流】地域の歴史を感じられるシンボルづくり	主なスポット 亀戸駅前歩道橋 亀戸駅北口周辺 サンストリート亀戸跡地
亀戸天神周辺エリア ◎【安全・安心】防災のための基盤整備 ○【観光・交流】亀戸梅屋敷を核としたイベント・プロモーション ○【観光・交流】歴史資源と商店等の連携による観光ルートづくり	主なスポット 亀戸二丁目団地 亀戸梅屋敷 亀戸香取勝運商店街
亀戸五丁目周辺エリア ○【安全・安心】細街路の拡幅による防災性の強化 ○【道路・交通】自転車関連設備の整備 ○【水辺と緑】亀戸中央公園の活用 ○【水辺と緑／観光・交流】歴史・水・緑のつながり確保	主なスポット 亀戸五丁目中央通り 亀戸中央公園 老朽木造住宅密集市街地
西大島駅周辺エリア ○【土地利用】大島三丁目地区再開発プロジェクト ○【水辺と緑】まちの公園化プロジェクト ○【観光・交流】商店街の広域連携 ○【観光・交流】あたらしい大島の文化創出 ○【水辺と緑】西大島駅前のオープンスペース創出 ○【水辺と緑】緑の空間を活用したスポーツの推進	主なスポット 再開発促進地区 大島四丁目団地 西大島駅通り会 大島緑道公園

大島六丁目周辺エリア ◎【水辺と緑】 ウォーター&グリーンプロジェクト ○【観光・交流】 あたらしい大島の文化創出 ○【観光・交流】 小名木川周辺の緑化と活性化 ○【水辺と緑】 竪川河川敷公園等の整備	主なスポット 大島中の橋商店街 大島六丁目団地 小名木川 竪川河川敷公園
小名木川・旧中川・竪川周辺エリア ◎【水辺と緑／観光・交流】 小名木川と周辺地域の連携によるイベントと新たな取組の強化 ◎【水辺と緑】 公園のようなまちづくり ○【観光・交流】 川沿いでのサイクリング、ウォーキング環境整備 ○【観光・交流】 レガシーを活用したスポーツ振興	主なスポット 小名木川 大島小松川公園 竪川河川敷公園 旧中川

城東南部地区のプロジェクトマップ



<城東南部地区 主な提案プロジェクト> ◎：特に重要と考える取組

北砂東周辺エリア ◎【道路・交通】 地区回遊都市バスの運行と自転車移動推進 ◎【安全・安心】 大規模災害対策 ◎【観光・交流】 地域交流居場所づくり・子育て応援まちづくり ◎【観光・交流】 歴史のある商店街ならではの専門店の質向上 ◎【住環境】 団地内、商店街内の交流の場づくり ○【安全・安心】 先端技術を活用した災害情報発信 ○【水辺と緑／観光・交流】 小名木川の船着場整備と活用 ○【水辺と緑】 小名木川両岸の交流促進	主なスポット 砂町銀座商店街 北砂五丁目団地 砂町文化センター 仙台堀川公園 小名木川
---	---

地区の将来像

城東北部地区	多様性、防災性を基盤に、河川や新しい交通を活用した地区連携が進み、新たな歴史と文化、魅力や交流が創造され受け継がれる、楽しく住みやすいまち
城東南部地区	安全安心で交通と暮らしの利便性が高く、特色ある商業や水辺と緑の資源を活かしてコミュニティを育み交流が絶えないまち

南部地域

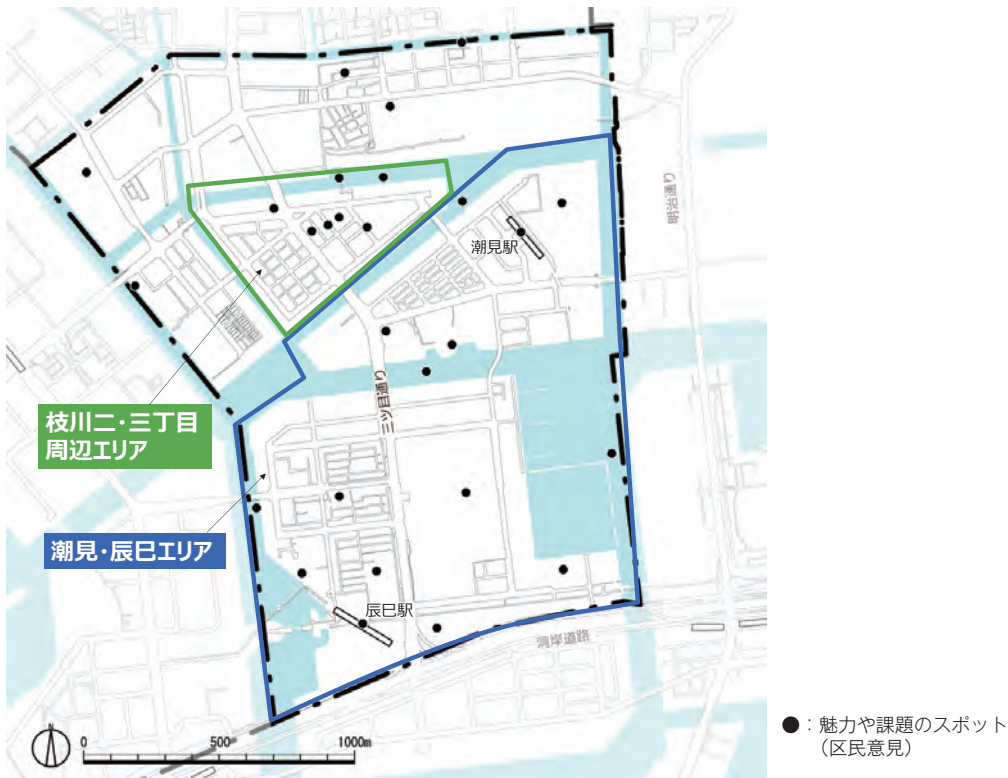
南部地区西のプロジェクトマップ



<南部地区西 主な提案プロジェクト> ◎：特に重要と考える取組

豊洲駅・豊洲二～五丁目周辺エリア ◎【道路・交通】豊洲駅の地下空間拡充、空中テラスの整備 ◎【安全・安心】豊洲埠頭の防災栈橋化 ◎【住環境】都営豊洲四丁目アパート跡地、豊洲四丁目公園を活用した広場づくり ◎【住環境】公共の集会所や公共施設を活用した多世代の学びの場、遊べる空間づくり ◎【観光・交流】豊洲駅とまちを繋ぐ広場空間整備 ○【道路・交通】晴海通りの地下通路・空間や地上デッキの設置 ○【観光・交流】豊洲シエルコート商店会の広場活用	主なスポット 豊洲駅周辺 豊洲ぐるり公園 都営豊洲四丁目アパート 豊洲四丁目公園 晴海通り 豊洲商友会
豊洲・有明・東雲のオープンスペース・水辺エリア ◎【水辺と緑／観光・交流】水域を利用したアミューズメントエリアの創造 ◎【水辺と緑】運河一帯の活用 ◎【水辺と緑】オープンスペースでの居場所づくり、にぎわいづくり ◎【道路・交通】無電柱化と歩道整備 ◎【環境】クリーンなまちづくり ○【道路・交通】歩道の回遊性向上	主なスポット 豊洲ぐるり公園 東雲運河
有明エリア ◎【観光・交流】オリパラ会場を活用したスポーツ・エンタメ拠点形成 ○【観光・交流】スポーツエキシビジョン広場の整備 ○【観光・交流】回遊できるまちづくり	主なスポット 有明アーバンスポーツパーク（仮称） 有明駅周辺 にぎわいロード

南部地区東のプロジェクトマップ

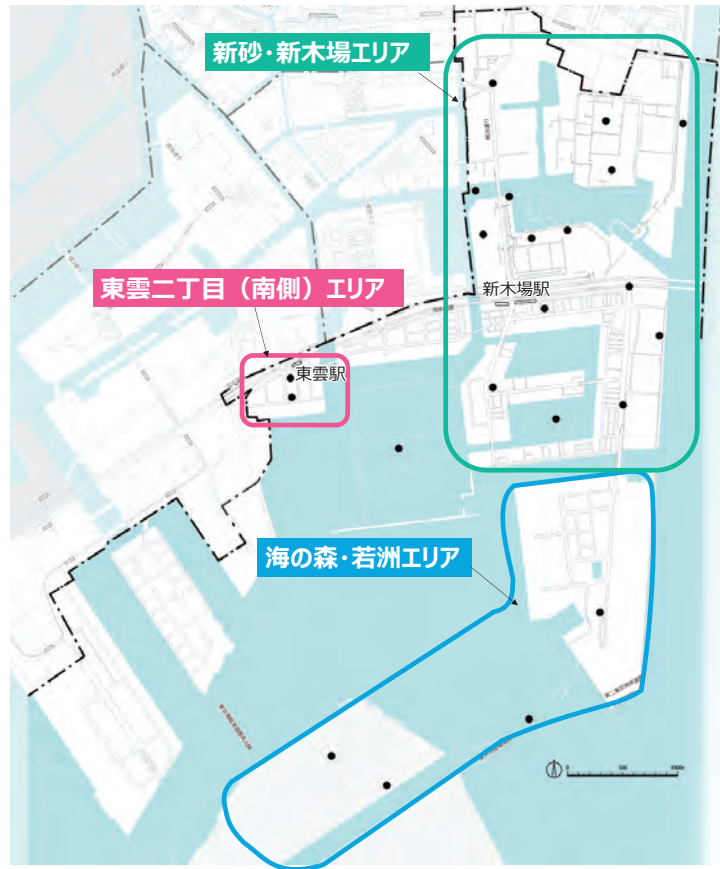


<南部地区東 主な提案プロジェクト>

◎：特に重要と考える取組

枝川二・三丁目周辺エリア ◎【土地利用】新駅とあわせた周辺の再開発 ◎【道路・交通】水上交通網「河の道」としての護岸整備 ◎【土地利用／住環境】新駅周辺の住環境の向上	主なスポット 枝川 IC（出口） 汐見運河
潮見・辰巳エリア ◎【土地利用／住環境】潮見駅周辺エリアの生活利便性向上 ○【安全・安心】広域避難場所の受入 ○【水辺と緑】水質改善によるコミュニティ形成	主なスポット 潮見駅周辺 都営辰巳一丁目アパート

湾岸地区のプロジェクトマップ



<湾岸地区 主な提案プロジェクト> ◎：特に重要と考える取組

新砂・新木場エリア ◎【土地利用／観光・交流】新木場駅前の活性化 ◎【土地利用】交通利便性を活かした新産業の誘致 ○【道路・交通】交通ターミナル機能の拡充 ○【道路・交通】域内交通の活性化	主なスポット 新木場駅周辺 夢の島交差点
海の森・若洲エリア ◎【観光・交流】スポーツの拠点形成 ○【環境】水辺の環境教育の舞台としての活用 ○【環境】木材埠頭のグリーン発電 ○【道路・交通】自動運転の社会実験フィールド	主なスポット 海の森公園 海の森水上競技場
東雲二丁目（南側）エリア ○【土地利用】東雲のウォーターフロントとしての開発促進	主なスポット 東雲駅周辺

地区の将来像

南部地区西	非常時にも対応できる水上交通や水面、空中を含めた立体空間とコミュニケーションの創出 ～水辺や水上、地下も含めた広場・歩行空間の活用やスポーツを通して多様な立場の人々のにぎわいやつながりが時空を超えて生まれるまち～
南部地区東	地下鉄8号線の延伸やまちの機能更新を契機に暮らしやすく快適な水辺と緑に恵まれ防災性の向上が図られる安心安全なまち
湾岸地区	高い交通利便性や立地の特色を活かし、新たな産業等を受け入れるなど東京湾岸の新たな拠点として時代とともに転換していくまち

(4) 学生ワークショップの主な意見

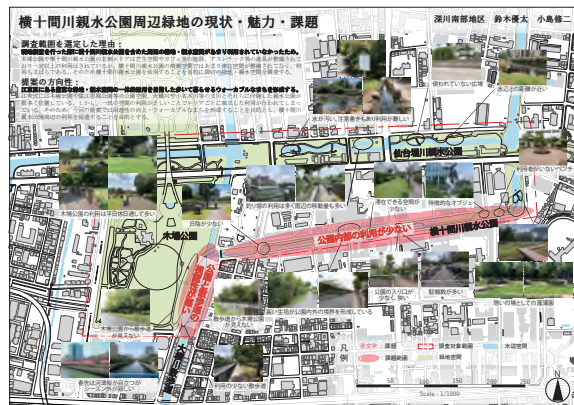
深川地域・城東地域・南部地域において、各地域の魅力や課題を整理し、まちづくりに関連する改善や更なる魅力向上につながる提案を取りまとめました。

1) 各地域の魅力と課題

学生ワークショップでは、各地域でまちあるきやヒアリング調査等を行い、まちの現況、魅力や課題を抽出・整理しました。

深川地域

まち歩きを通して、地域の特色ある複数のエリアを対象に、魅力や課題をきめ細かく抽出・整理しました。特にカフェのにぎわいや都市におけるバッファゾーンなど、地域の特性に焦点を当てました。



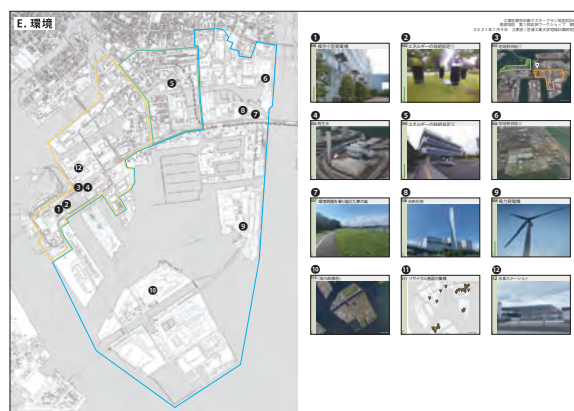
城東地域

地域のキーとなる人物（5名）へのヒアリング及びまち歩きを通して魅力や課題を抽出・整理しました。アナログによるプレゼンテーションにこだわり、きめ細かく地域特性を探りました。



南部地域

地域が広い南部地域では、まちづくりに関連する複数のテーマごとに魅力や課題を抽出・整理しました。大きなゾーニングによるテーマ分析を行うなど、地域のスケールに応じたアプローチを採りました。



2) まちづくりへの提案

深川地域

深川地域では、地域の魅力や課題を整理したうえ、「清澄白河」「牡丹町公園周辺、首都高速道路周辺」「横十間川親水公園周辺」「門前仲町」を対象エリアとして提案しました。

<提案リスト>

◎：特に重要と考える取組

清澄白河	清澄白河にぎわいとまち巡り	・提案①【土地利用】にぎわいの創出と住環境保全の両立を目指す地区計画 ◎提案②【観光・交流】境内でひとやすみ／コーヒー片手にアートなお散歩 ・提案③【観光・交流】まちめぐりを助けるサイン計画
牡丹町公園・首都高速道路周辺	都市を豊かにするバッファースペース	◎提案④【水辺と緑／住環境】地域における教育・生活・観光エリアのバッファースペースとしての牡丹町公園、古石場川や大横川等河川沿いの緑地空間、道路空間の活用 ・提案⑤【安全・安心／住環境】住宅地と繁華街のバッファースペースとしての首都高速道路高架下空間の活用
横十間川親水公園周辺	横十間川親水公園周辺の緑地活用 みどりから広まる街の発展	・提案⑥【水辺と緑】大横川散歩道の視認性の向上 ・提案⑦【水辺と緑】横十間川親水公園の利便性の向上 ◎提案⑧【水辺と緑】木場公園、仙台堀川公園、横十間川親水公園の連続性の確保 ・提案⑨【水辺と緑】親水公園の地域の子ども達の学びの場への転換
門前仲町	門前仲町における魅力創出	・提案⑩【道路・交通】自転車利用環境の改善（シェアサイクルポート設置、自転車駐車場の附置義務化と自転車専用道路の設置） ・提案⑪【観光・交流】大横川への船着場と観光施設の設置 ・提案⑫【景観】歴史的資源と現代の景観との調和（屋外広告物の色彩基準強化、歴史的意匠を取り入れた駅舎デザイン）

「清澄白河 にぎわいとまち巡り」

清澄白河
賑わいとまち巡り

M2_高橋良太 M7_盛本美波 BV_長門袖里香
歴史と新しい文化が融合する街「清澄白河」にはカフェが絶えず誕生し、若者から新たな文化の発信地としても注目されています。今後もカフェへの賑わいが増えることで清澄白河のまち全体の活性化にもつながります。そこで、清澄白河駅周辺の大通りからカフェが集積しているエリアへの集積として賑わい創出を目的とした提案を行います。

1. 賑わいの創出と住環境保全の両立を目指す地区計画

地区計画の内容

A地区：今後、マンション等の建物を建設する際には1階部分に店舗を入れるように義務付ける。これはカフェ集積エリア周辺の賑わい創出を主な目的とした路線型地区計画である。また、地区計画以外の制度と連動させ、1階部分に出店する店舗には賑わい創出の協力として区から補助金が出る仕組みとする。

B地区：建物の高さを30m以下に制限した面的な地区計画。

効果

A地区

①まちの賑わいを生み出す
1階部分に住居などが入るのではなく、店舗が入ることによって、建物への出入りの増加により沿道型地区計画がかかる連体系的に人通りが増えることが見込まれる。人通りが増えることで大通り沿いのエリアでの賑わいを創出する。

②大通りからのカフェ集積エリアへのつながり
カフェ集積エリアを大通りからつなげて地区計画を路線型でかけることで大通りからカフェ集積エリアへのメインストリートのようにつながりができ、清澄白河に訪れた人々がカフェへ足を運ぶやすくなる。

③本場公園と清澄公園とのつながり
東西で清澄通りからカフェ集積エリアへつなげる道はカフェへのメインストリートという役割を果たすだけでなく、本場公園と清澄公園・清澄公園とのつながりも生み出す効果がある。

B地区

住環境の保全だけでなく、周辺にある寺院や街並みとの調和が見込まれる。

2. 境内でひとやすみ

寺院を地域に開き、賑わいを創出

現在、清澄白河地区には32の寺院が集積しているが魅力として取り上げられることは少ない。

そこで、これらの寺院の中で地域に開放できる屋外空間を持つ寺院を選定。（マップに記載）
境内を散歩可能にすることで、カフェで購入した商品を持ち寄り、休憩することもできる。

3. まちめぐりを助けるサイン計画

東京都現代美術館にて使用されているサインを町中にも設置

美術館のサインを手がけたデザイナーの一人は、平野一丁目にあるブルーボトルコーヒーの設計にも関わっている。

両施設のサイン・デザインを合わせて、駅からの案内板を変更し、街全体の魅力を高める。

富蔵寺境内
浄心寺

清澄白河駅前
現代美術館内のサイン

*地図は基盤地図情報（国土地理院）を基に作成

城東地域

城東地域では、地域におけるキーとなる人物へのヒアリングなどを通して地域の魅力や課題を整理したうえ、「亀戸九丁目周辺」「大島地区」「砂町・南砂地区」を対象エリアとして提案しました。

<提案リスト>

◎：特に重要と考える取組

亀戸地区（亀戸九丁目周辺）	環境に優しく、緑の多い、歩いて暮らせるまち	・ 提案①【水辺と緑】 亀戸中央公園での Park-PFI カフェ導入 ・ 提案②【道路・交通】 空地、公園にコミュニティサイクルポート増設
大島地区	パラリンピックレガシータウン	・ 提案③【観光・交流】 休息機能の強化（にぎわい施設を常時開放） ・ 提案④【観光・交流】 情報発信機能の強化 ◎提案⑤【観光・交流】 地域連携機能の強化（イベント開催など）
	まちと水辺の接続	・ 提案⑥【水辺と緑】 カワマチガーデン ・ 提案⑦【水辺と緑】 橋上緑化（コミュニティガーデン） ・ 提案⑧【水辺と緑】 小名木川沿い道路幅員の一部拡張
		・ 提案⑨【景観】 景観重点地区としての整備
砂町地区	安心して歩く、人と触れ合いのあるまち	◎提案⑩【道路・交通】 道の拡幅と行き止まり道路の解消 ◎提案⑪【道路・交通】 砂町地区における交通面の改善
砂町・南砂地区	砂町の歴史と緑と街をつないで	・ 提案⑫【住環境】 神社を核とするコミュニティづくり
		◎提案⑬【水辺と緑】 緑のネットワークの質向上 ・ 提案⑭【道路・交通】 舗装改善と電線地中化

「亀戸九丁目：環境に優しく、緑の多い、歩いて暮らせるまち」

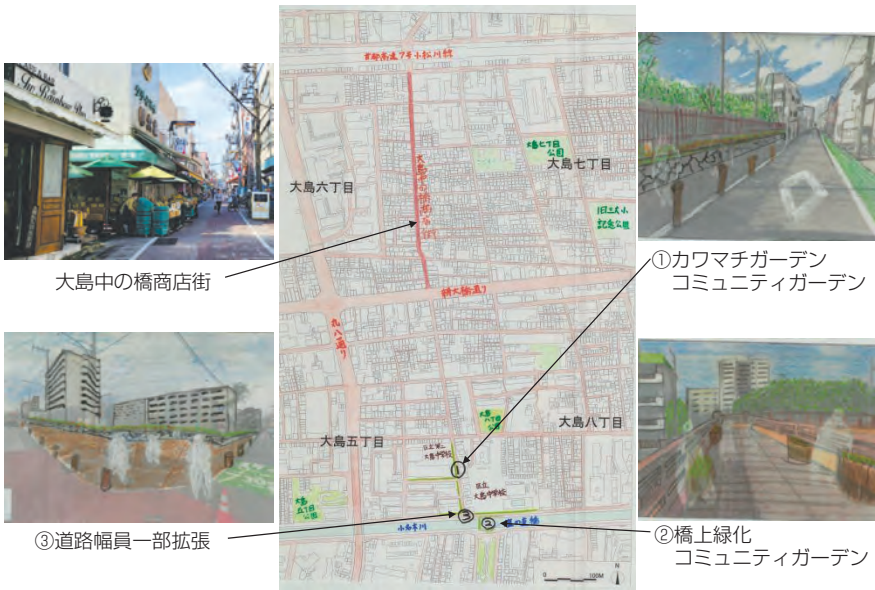


- ①亀戸中央公園での Park-PFI カフェ導入
- ②空地、公園にコミュニティサイクルポートの増設

「大島地区：パラリンピックレガシータウン、まちと水辺の接続」



- ③休息機能：にぎわい施設を常時開放し地域住民に活用してもらう。
- ④情報発信機能：施設周辺に天気や地域情報の分かる掲示板を設置する。
- ⑤地域連携機能：イベントを開催し地元住民の連携・周辺地域の連携を図る。



「砂町地区：安心して歩く、人と触れ合いのあるまち」



「砂町・南砂地区：砂町の歴史と緑と街をつないで」



南部地域

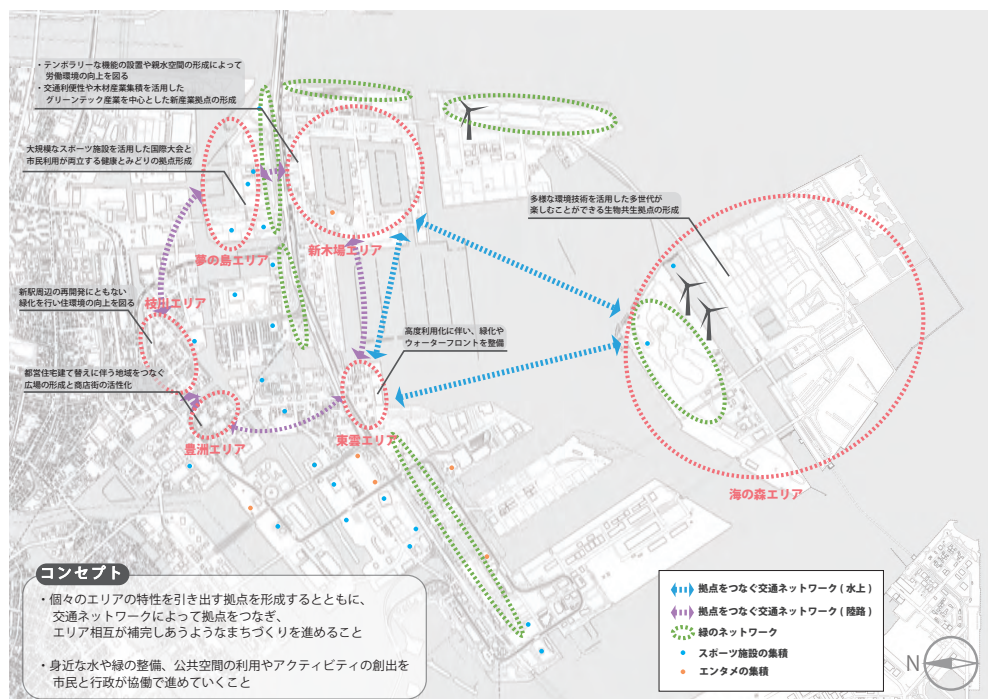
南部地域では、道路交通、住環境、観光・交流、水辺と緑などの視点でテーマ別に分析を行ったうえで、「豊洲」「枝川、東雲」「夢の島」「海の森」「新木場」をはじめ多数の対象エリアについて提案しました。

<提案リスト>

◎：特に重要と考える取組

豊洲	エリア計画	◎提案①【水辺と緑／住環境】都営豊洲四丁目アパート跡地計画
枝川、東雲		・提案②【住環境】新駅周辺の住環境の向上 ・提案③【水辺と緑】ウォーターフロントの整備
夢の島		◎提案④【環境／水辺と緑】夢の島一体整備
海の森、湾岸地区		・提案⑤【環境／水辺と緑】自然共生テーマパーク ◎提案⑥【環境／水辺と緑】クリーンなまちづくり
新木場、湾岸地区		◎提案⑦【土地利用】産業集積地としての発展と親水空間形成 ◎提案⑧【環境】サーキュラーエコノミー*
新木場、若洲	身近なみどり	・提案⑨【水辺と緑】身近な環境形成と公共空間利用
塩浜		・提案⑩【水辺と緑】東京都港湾局専用線跡地の再生
東雲、辰巳、豊洲、塩浜	水辺空間	◎提案⑪【安全・安心／水辺と緑】安心安全の水辺空間
地区全体		◎提案⑫【水辺と緑】水辺の休憩所
豊洲、枝川、塩浜、潮見、新砂		◎提案⑬【水辺と緑】運河の幅に合わせた水辺空間 -M-
青海、新木場、若洲、海の森		・提案⑭【水辺と緑】運河の幅に合わせた水辺空間 -XL-
有明、東雲、辰巳、夢の島		◎提案⑮【水辺と緑】運河の幅に合わせた水辺空間 -L-
地区全体	回遊性ネットワーク	◎提案⑯【道路・交通】回遊性ネットワーク
地区全体	水とみどりのまちづくり	◎提案⑰【水辺と緑／道路・交通】水上交通
東雲		◎提案⑱【水辺と緑／道路・交通】緑のネットワーク

「南部地域におけるまちづくりの提案」



第4章 地区別まちづくり方針

※提案の一部を抜粋しています。

01 豊洲4丁目団地跡地計画

豊洲

■豊洲1~3丁目まちづくり方針
・豊洲4丁目エリア
まちづくり方針イメージ

■敷地活用調査

①緑道公園を中心とした歩行者にやさしい通り



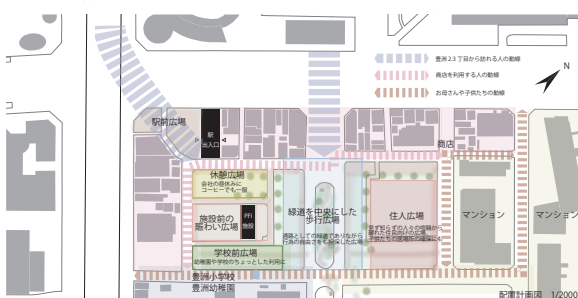
②小さな商店や老舗の商店が集結したエリアの存在



③近隣で暮らす子供たちのいる明るい空間



■駅前広場計画案

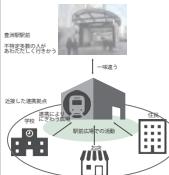
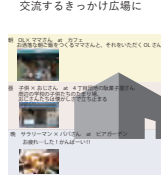


<PFI>

I 申請窓口が単純化

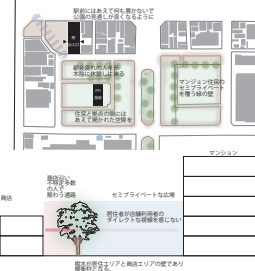


II 住民中心のローカルな駅広場へ

III 普段話さずことのない相手とも
交流するきっかけ広場に

東京の各地で、都市の孤独が叫ばれる中、老舗のお店や車の少ない通り、そこに集う子供たちや見守る大人は豊洲の財産である。これらの財産に加え、新駅が完成すると、新旧両利用者が愛着を持って使える場が必要だ。広場は既存の環境を活かした一例である。小さな店舗群の中庭になりつつ、住民同士の交流の場、生活の場、学びの場として展開される。

<樹木の配置>



02 新駅周辺の住環境の向上

枝川

地下鉄八号線の延伸の決定により再開発の機運が高まっている枝川は緑化率が低い。人の賑わいと緑を増やす再開発により魅力的な地区を創出する。

■新駅周辺の緑と賑わいの創出

- ・枝川二丁目には小・中規模の工場や事業所が多く、緑化率が低い。
- ・商業を誘導
- ・駅前広場を作る
- ・広い幅員の沿道の樹木を整備する

一人の賑わいと緑を生み出す



■公共施設による緑の創出

- ・公共施設を新たに建てる際には緑を創出し、近隣住民が利用できるようにする
- ・建築物の屋上を庭園や都市農園にする



03 ウォーターフロントの整備

東雲

豊洲、有明など居住地に近い東雲のウォーターフロントを整備したり、緑化を行うことで身近な水辺空間を魅力あふれるものとする。

■ウォーターフロント整備



豊洲や有明、東雲などの高層マンション群に近い東雲二丁目のウォーターフロントを整備することで、身近な水辺空間を魅力的な空間にし、住環境の向上を図る。

■みどりの創出



『東雲二丁目南地区地区計画』による壁面緑化を利用し、メイン通りに街路樹を整備したり、大きな道路沿いや水辺にかたまった緑を創出することで、身近な水辺空間を魅力あふれるものとする。

06 クリーンなまちづくり

海の森
南部地区全体
若洲

都市の中でエネルギーを生み出し、都市の中でエネルギーを消費する。大規模なものだけではなく、小規模なものにもクリーンテクノロジーを取り入れる。

■クリーンエネルギーの地産地消

- ・風力発電や太陽光発電により地域の電力の一部をまかなう。(若洲、海の森の風力発電機)



■都市の設置物への導入

- ・再生可能エネルギーを小規模のものにも取り入れることで、都市全体で環境問題に取り組む
- ・バス停の電光掲示板、看板広告、ライトアップ、ミストなど
- ・小規模な設置物は比較的安価で行うことができるため、住民にアイデアの提案をしてもらい、導入することも可能



08 サークュラーエコノミー

南部地区全体

リユースやリサイクルを促進し、サーキュラーエコノミーを形成する

■エネルギー関連の施設・仕組み

- ・江東区では施設が連携してエネルギーの有効活用を行っている。
- ・地域熱供給(新江東清掃工場、砂町水再生センター)



出典：夢の島バーチャル植物館

■リサイクル施設

- ・リサイクル関係の会社が多くある
- ・家電(東京エコリサイクル株式会社)
- ・廃プラスチック類・紙・繊維くず(有明興業株式会社)
- ・ペットボトル(東京ペットボトル株式会社)
- ・木質廃棄物(東京ボード工業株式会社)



新木場の土地利用の変化を機に新木場を拠点としたサーキュラーエコノミーを形成する

■湾岸地区におけるサーキュラーエコノミー



地区別ワークショップの成果

芝浦工業大学建築学部教授

志村秀明



地区別まちづくり方針を策定する区民ワークショップは、コロナ禍のために対面を諦めて、オンラインでの開催となりました。オンラインでのワークショップは、オンラインに対応できない参加者がいることや、参加者同士の意思の疎通が難しくなるといった欠点がありますが、ファシリテーターを務めたコンサルタントなどの頑張りで、参加者からは多くのコメントやアイデアが出され、最善を尽くされていたと思います。また意見交換の状況が、ほぼリアルタイムに画面上で確認できるという、オンラインならではの良さも発揮されていました。さらに、オンラインに対応できず一度も参加できなかった区民を対象として「展示会」を開催したことで、ほぼ全ての参加予定区民からコメントやアイデアを集められたと言えます。

ところでコロナ禍によって、身近な生活環境を向上させる取組が、欧米を中心として加速しています。例えば、車道を狭めたり、廃止したりすることで自動車を締め出し、オープンカフェや広場といった人々のための空間を創出していく取組です。区内には、水辺や緑地、公園が各所にありますが、区民の満足度は必ずしも高くありません。

昔から地域コミュニティを支えてきた近隣商店街も衰退しつつあります。区民の身近にある水辺や緑地、公園、商店街の魅力を高めていくことを地区別まちづくり方針に盛り込んだことは、機を捉えた成果だったと思います。

ワークショップがオンライン開催となったことで、急遽実施されたのが芝浦工業大学建築学科都市計画系研究室による「学生ワークショップ」でした。桑田仁先生、佐藤宏亮先生、それぞれの研究室及び志村研究室の学生達の頑張りで、発見した魅力と課題にもとづく提案が多数提示されたことは、地区別まちづくり方針を充実させただけでなく、区ならではの新たなまちづくりの方法にもなるでしょう。また学生達がワークショップの一環として行った区民ヒアリング調査は、区と区民、芝浦工業大学間の新たな繋がりを育みました。

このワークショップ開催期間中に、オリンピック・パラリンピックが開催されました。コロナ禍で無観客開催となったために、そのレガシーの形成は、多くの競技会場をもっていた区にとっては大きな課題です。また地下鉄8号線の延伸が実現に向けて本格的に動き出しました。区の悲願であった南北交通問題の解決にはなりますが、地下鉄駅の開設が予定されている地区を中心として、まちの将来像を急ピッチで描く必要があります。

区のまちづくりは、まだまだ課題が一杯です。対面に加えてオンラインも補完的に使用されることで、活発化した、あるいは新たに生まれてくるまちづくりの運動体が、様々な課題を解決していき、時代の先端を行く、持続可能な区をつくりだすでしょう。